



平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
 II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
 III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
 IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
 V 児童生徒オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

実践事業	【 II 】	I～Vを記入して下さい。	
学校名	京都府立 京都八幡 学校	全校生徒数	583名
実践学年、部、講座等	1. 人間科学科 3年 1組 2. 女子ソフトボール部 3. 南キャンパス昼休み交流生徒		
目 標 (ねらい)	オリンピズムの観点(○印) <重複可>	友情 (○) 卓越 () 尊重 (○)	
八幡支援学校、城陽支援学校との交流において、オリンピック・パラリンピック種目を体験することで関心を高めるとともに、サポートのあり方等を学ぶ			
1. 人間科学科 3年と八幡支援学校高等部との授業交流にて 「ボッチャ」【平成27年12月7日(月)】 「フライングディスク」【平成28年1月18日(月)】の実施 (1) 集合・挨拶・本時の流れの説明 (2) 交流ダンス (3) 12/7ボッチャ 1/18フライングディスク (4) 12/7バスケットボール 1/18ドッジビー (5) 結果発表・感想の発表 (6) まとめ・挨拶・チームごとに写真撮影			
2. 本校女子ソフトボール部と城陽支援学校ソフトボール部との部活動交流の実施【平成27年12月13日(日)】 (1) 集合・挨拶・自己紹介 (2) 準備体操・ダッシュ (3) キャッチボール (4) バッティング練習 横からのフリーバッティング (5) 守備練習 内野ノック・外野ノック・実践ノック (6) 練習試合 (7) 集合・まとめ・挨拶・片付け			

	<p>3. 南キャンパス昼休み交流生徒と八幡支援学校生徒との昼休み交流にて「フライングディスク」の実施【随時】</p>
<p>実施上の留意点等</p>	<p>1. 本校の交流事前学習の中で、八幡支援学校の教諭に来てもらい種目の説明を実施。八幡支援学校側は、事前に体育の授業中にルールを説明し、実施体験済みで当日に臨んだ。</p> <p>2. 本校部員に対し、予測される注意点（できること、できないこと）など配慮事項を事前に説明し当日に臨んだ。</p> <p>※実施上で工夫したことも記入してください。</p>
<p>主な成果 (分析結果)</p>	<p>1. 人間科学科3年と八幡支援学校高等部との授業交流</p> <p>(1) 生徒の感想（原文のまま）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝ちを共に喜んで、負けを共に悔しがり、一緒に白熱した時間を過ごすことができた。ボッチャでは活躍できなかったけど、支援学校の生徒たちにカバーしてもらい勝つことができました。 ・混合チームで戦うことができ、さらに距離が縮まりました。一番うれしかったことは、取材に来られていた方に「みんなの間には、本当に壁を感じないね」と言っていたことです。初めて交流を見た人にそう感じてもらえたと思うとこれまで交流してきてよかったと思うし、それを見て少しでも障がいについて理解する人が増えればいいと思います。 ・初めてのフライングディスクで、きちんと投げられるか心配だったけど、輪に入ると「ナイス!」、入らなくても「おいしい!どんまい!」など声をかけあうことができ、とても盛り上がったし、楽しむことができました。 ・なかなか言葉や反応返してくれなかった生徒がフライングディスクとドッジビーをしていくにつれて少しずつ話してくれ、コミュニケーションをとることができてうれしかった。 ・3年間で最後の授業交流で、障がいのあるなしに関係なく、一緒に体育の授業をすることができた。今日が最後になってしまうことが寂しいですが、最後の最後までいろんなお話ができて嬉しかったです。高校に入学して、支援学校との交流や様々な交流を通して自分から行動する力がつきました。 <p>(2) まとめ</p> <p>共に作戦を立て、共に一喜一憂し、試合終了後は大きな拍手で互いの健闘を称える。笑顔の溢れた素晴らしい時間であった。八幡支援学校の生徒は、事前に体験済みであったため、本校生徒へコツを教える場面も多く見られた。また、不得意な生徒に対しては「おいしい!どんまい!次がんばろう!」など前向きな声かけを自然と掛け合うことができていた。普段から交流を実施しているためある程度の関係はできているのだが、今回新しいスポーツを同じルールで実施することで、会話が増え、チームのメンバー1人ひとりを尊重し合いながら取り組むことができ、より友情が深めることができた。</p>

主な成果
(分析結果)



※生徒の意識変化等の効果検証（アンケート結果表やグラフ等の掲載でも可）

※オリンピズム（卓越、友情、尊重）を踏まえた教育活動の成果

主な成果
(分析結果)

2. 本校女子ソフトボール部と城陽支援学校ソフトボール部との部活動交流

(1) 生徒の感想（原文のまま）

- ・はじめは緊張していたが、一緒にW-upをやっている時、教えたことを一生懸命にやろうとしてくれたことがうれしかったし、次はもっとわかりやすいように教えようと思った。
- ・バッティング練習の時、守備をしている人が早い球に対しても目を反らさず捕球しようとしていた。私は、怖くてすぐに目が離れてしまう悪い癖があるので、見習いたいと思った。
- ・実践ノックの時、ランナーをしていた人の打球判断がよく、足もとても速く、見習いたいと思った。
- ・緊張したが、後半は全員で声を出すことができ、たくさんの人数で実践的な練習もでき、とても楽しい時間だった。わざわざ来てくださり、ありがとうございました。またやりたいです。

(2) まとめ

両校の部員たちは、はじめは緊張した面持ちであったが、一緒に準備運動やキャッチボールなどのプレーをしていくうちに、声かけの数、笑顔が増えていった。本校の部員たちは、城陽支援学校ソフトボール部部員のプレーを見て、肩の強さや足の速さに驚きの声をあげ、城陽支援学校の部員は、本校部員の声の大きさや活気に圧倒されていた。障がいの有無に関わらずソフトボールというスポーツをツールとし、互いに尊敬・尊重し合いながら合同練習を実施する

ことができた。その中で本校生徒は、個々に応じたサポートや指導法を学び新たな気づきや練習方法の発見につなげる機会となった。



※生徒の意識変化等の効果検証（アンケート結果表やグラフ等の掲載でも可）

※オリンピズム（卓越、友情、尊重）を踏まえた教育活動の成果

3. 南キャンパス昼休み交流生徒と八幡支援学校生徒との昼休み交流

主な成果
(分析結果)

(1) まとめ

普段から日常的に行っている昼休み交流の中で、ダンスやドッジビー、遊具遊びなどを一緒に行っており、新しくできる遊びが増えた感覚で学部や障がいの程度に関係なく、みんなで楽しそうに実施をしていた。また、進めていく中で、児童・生徒間において自然と役割分担ができ、順番待ちの列ができ、その場での特別ルールができていたのも印象的であった。授業ではなく、遊びの中で実施をするメリット・学びが随所に見受けられ、譲り合いの精神や一緒に喜び、称え合えるよい効果がより多く得ることができた。



※生徒の意識変化等の効果検証（アンケート結果表やグラフ等の掲載でも可）

※オリンピズム（卓越、友情、尊重）を踏まえた教育活動の成果

主な課題等

1. 事前に練習をしたいが、ボッチャの用具が大変高価で、本校は購入することができなかった。
2. 特になし
3. 特になし